

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

1999.7.30
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り 6-13
電話 076-442-8000

オランダ・ハーグで世界市民会議 世界が見ている日本国憲法第9条

5月12日から15日、オランダのハーグで8千人が参加して開かれた第3回「世界市民平和会議」では、最終日に「公正な世界秩序のための基本10原則」が発表され、その第1項に「すべての議会は、日本の憲法第9条にならい、政府による戦争行為を禁止する決議を行うべきこと」がとりあげられました。この背景には各国のNGO（非政府組織）、特にIPPNW（核戦争防止世界医師会議）が大きな役割を果たしたといわれています。「戦争放棄」をうたった憲法第9条の精神と相入れない「新ガイドライン関連法」が成立するというわが国の政治動向に世界の人々が大きな危機感をもっています。世界市民会議で採択されたハーグ平和アピールの項目を紹介します。

1999年ハーグ平和アピール

（前文略）

1. すべての国家の議会は、日本国憲法第9条が定めているように、政府の戦争参加を禁止する決議をすべきである。
2. すべての国家は、国際司法裁判所（International Court of Justice）の強制力のある司法権を無条件に承認すべきである。
3. すべての政府は、国際刑事裁判所（ICC）条約を批准し、国際地雷条約を具体的に運用

すべきである。

4. すべての国家は、政府、国際機関、国際市民組織の友好的連帯としての新外交方式（New Diplomacy）を構築すべきである。
5. 世界は人道上の惨劇の傍観者であってはならない、しかし；武力に訴えるならばその前に可能なあらゆる外交手段を尽すこと、かつ国連の承認が不可欠である。
6. 核兵器廃絶会議のための交渉（複数）が直ちに開始されなければならない
7. 小火器の売買を厳重に規制すべきである。
8. 経済的権利が市民的権利と同等にあつかわれなければならない。
9. 世界中の学校で、義務的に平和教育がなされるべきである。
10. 戦争を防止する地球的活動計画を平和的世界秩序の基礎にすべきである。

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会 第6回総会のご案内

とき 8月8日（日）午後1時～2時

ところ 名鉄トヤマホテル 2階 朝霧の間
*井上ひさし講演会の前に、お越しください。

第6回総会議案

1997、1998年度活動報告

(1) 核兵器廃絶への世論形成に努める事業

- ・1997年7月26日、元長崎市長の本島等氏を講師に招き、市民公開講演会を行った。テーマは、「ナガサキの原点に立って21世紀を考える」。本島元市長は、日本が核廃絶を世界に訴えるには、先の戦争の加害者としての反省がなければならない、アメリカの核の傘の下では説得力を持たない」と述べた。
- ・1998年5月、インド・パキスタンが相次いで地下核実験を強行した。核廃絶を願う世論に真っ向から挑戦する両国の行為に対し世界中に非難の声が広がった。当会もインドに2回、パキスタンに1回の抗議電を送付した。
- ・1998年9月4日、「ちひろの世界-今、本当のやさしさを求めて」と題した市民公開講演会(保険医協会と共催)を行った。

講師はちひろ美術館副館長の松本由里子氏。子どもを描くなかに平和への強いメッセージ



を含めた絵本画家の行き様を伝え、感動を呼んだ。

- ・1998年12月、アメリカ・ロシアが臨界前核実験を相次いで行った。これは核爆発を伴わない核兵器の開発であり、世界

からはCTBT(包括的核実験禁止条約)の形骸化という批判が集中した。当会も実質的な核実験を繰り返す両国に対し、抗議電を送付した。

(2) 県内の非核・平和団体との協力、共同の取り組み

- ・1997年8月、「空襲・戦争を記録する会第27回全国連絡会富山大会」ならびに富山高校演劇部による朗読劇「昭和の遺書」上演に対し協賛した。98年の同校朗読劇「人も家も焼き尽くされた-富山大空襲-」にも協賛した。
- ・1998年8月、「非核富山県宣言を求める請願陳情」の活動に対し、医師医学者の団体として陳情者を募ることに協力を行った。1999年5月現在の陳情者は146人、そのうち医師、歯科医師は31人にのぼったことは当会の働きかけによるところが大きい。しかし北陸では石川県と福井県は「宣言」が採択されているが、富山県は継続審議中である。

(3) IPPNW並びに他府県の同趣旨の会との連携

- ・1997年10月、愛知県で行われた「核戦争防止、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」に世話人が参加した。

(4) 組織の充実、発展をめざす

- ・会設立以来10年が経過し、世話人体制も高齢化がすすんだ。次年度より世話人体制の補完が必要である。
- ・7月30日現在の会員数は98人である。

1999、2000年度活動方針案

(1) 核兵器廃絶への世論形成に努める事業

- ・市民公開講演会(保険医協会と共催)を、1999年8月8日に開催する。講師は作家であり、非核の政府を求める会世話人の井上ひさし氏。演題は「二つの憲法、今の国のかたちを問う」である。

(2) いかなる戦争にも反対し、憲法を守り、平和を希求する活動

- ・新ガイドライン法成立、日の丸君が代法制化に続いて、憲法調査会が国会に置かれた。戦争につながるあらゆる危険な動きに対し、警鐘を鳴らしていく。

(3) 県内の非核・平和団体との協力、共同の取り組み

- ・昨年の「非核富山県宣言」陳情者を広げ

る活動に引き続き取り組む。今年度こそ決議が採択されるよう、1999年12月県議会にむけて、再度医師、歯科医師への呼びかけを行なう。

- ・15年間続いていた富山高校演劇部の朗読劇が今年中止になったが、共演していた「とやま朗読劇の会」の自主公演「人間、いのち 平和への願い」に、引き続き協賛を行なう。

(4) IPPNW並びに他府県の同趣旨の会との連携

- ・第10回核戦争防止、核兵器廃絶を求める医師、医学者のつどい」に参加する。

(1999年11月21日、東京都内)

(5) 組織の充実、発展をめざす

- ・世話人体制を強化し、定期開催をする。
- ・会報による情報提供により、会員増加を図る。

1997年度および1998年度会計報告

自：1997年8月 1日

至：1999年7月31日

<収入の部>

年会費	550,000
雑収入	117,690
<u>前年度繰越金</u>	<u>669,839</u>
合計	1,337,529

<支出の部>

会議費	45,578
事業費	522,461
事務費	23,310
協賛金	60,000
雑費	0
<u>翌年度繰越金</u>	<u>686,180</u>
合計	1,337,529

1999年度および2000年度予算案

自：1999年8月 1日

至：2001年7月31日

<収入の部>

年会費	600,000
雑収入	10,000
<u>前年度繰越金</u>	<u>686,180</u>
合計	1,296,180

<支出の部>

会議費	100,000
事業費	400,000
事務費	150,000
協賛金	60,000
雑費	0
<u>翌年度繰越金</u>	<u>586,180</u>
合計	1,296,180

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会 会則

- 第 1 条 本会は「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」と称し、事務所を富山市内におく。
- 第 2 条 本会は、人間の健康と生命を守る医師のヒューマニズムにもとづき、核兵器廃絶と核戦争防止のために、医師として可能な限り努力する。
- 第 3 条 本会は、核兵器廃絶と核戦争の防止を願う、医師・歯科医師、医学者によって構成する。
- 第 4 条 本会は、会の自主性を堅持し、他のいかなる団体にも拘束されない。
- 第 5 条 本会は、第 2 条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 核兵器廃絶・核戦争防止のための世論を高める事業。
 - 2 核兵器完全禁止署名への協力。
 - 3 他都道府県の同趣旨の会との連携、「核戦争防止国際医師会議」(I P P N W) への協力。
 - 4 県内の被爆者及び被爆者団体との連携。
 - 5 講演会・映画会等必要と認められる事業。
- 第 6 条 本会の事業すすめるため、若干名の世話人をおく。世話人代表は世話人会の互選とする。また、顧問をおくことができる。
- 第 7 条 世話人及び顧問は、総会で選出する。
- 第 8 条 世話人及び顧問の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 第 9 条 総会は、少なくとも 2 年に 1 回は開催する。

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会 世話人名簿

- 世話人代表 佐々 学 (元富山医科薬科大学 学長)
- 世 話 人 片山 喬 (富山医科薬科大学附属病院 院長)
- 山本 恵一 (前富山医科薬科大学教授)
- 品川 俊男 (富山市・品川医院 院長)
- 村田 巧 (立山町・村田医院 院長)
- 滝 邦彦 (大沢野町・滝医院 院長)
- 高野 昇治 (富山市・高野整形外科リウマチ科医院 院長)
- 黒部 信也 (富山市・富山協立病院 名誉院長)
- 多田 秀一 (富山市・多田眼科医院 院長)
- 梅崎 伸 (新湊市・梅崎小児科医院 院長)
- 深山 正之 (富山市・深山歯科医院 院長)
- 小熊 清史 (魚津市・小熊歯科医院 院長)
- 太田 真治 (高岡市・おおたファミリー歯科 院長)

核兵器年表をホームページに掲載

海外から大きな反響

東京反核医師の会会員 渡植貞一郎

(神奈川県相模原市 67歳)

私たち核廃絶をめざす医師の会は、インターネットのホームページに核兵器年表を掲載している。ウランの発見から核物理学の発達、原爆製造・投下、最近の核実験に至るまで、核兵器に関する史実が年代を追って列記してある。

私の教え子の父親が、人類はなぜこんなものを持っているのか考えてみようとかつこつと編さんした。決しておもしろい読み物ではない。しかし、通読すれば、核の時代としての20世紀の愚かしくも悲惨な経過が事実を通して分かる。

この年表の英文ページへのアクセスは、1カ月数百件であった。ところが、5月は1カ月約7千件に急増した。約7割が

アメリカ・カナダ、残りはアジア・南太平洋地域とヨーロッパからのアクセスが半々。1日に200人以上がアクセスしているのだ。

5月にオランダで開かれたハーグ平和市民会議でチラシを配ったが、その前からアクセス数は増え始めていた。21世紀を核兵器の恐怖の時代にしないという、各国の市民たちの思いの表れだろうか。ひとたび市民が動き出せば、遠からず振り子が反動するのは歴史の示すところだ。

東京反核医師の会の
ホームページアドレス

<http://www.ask.ne.jp/~hankaku/>
(朝日新聞「声」欄からの転載)

1999年度会費納入のお願い

私たち医師・医学者の会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、1999年度会費の納入をお願いします。この会報に「郵便払込票」同封しますので、何卒よろしくお願い致します。

◇年会費 5,000円

◇振込方法

同封の「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶を求める

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコビル11階 076(442)8000

編集後記

「…つまり今なおあの2発は爆発を続けているのです。」「ではどうすればいいのか。アメリカの核の傘の下から一刻も早く出て悪魔の弟子どもと縁を切ること。その上で、核廃絶に命を懸けること。核廃絶なんて、永遠にできないことかもしれない。しかし、それでも核廃絶を実現しなければいけない。そのためには悲しく辛いドンキホーテになるしかありませんが、でも、これこそ日本人にしかできない美しい仕事。いいえ、これは世界史が日本人に特別に託した大仕事だと信じています。」(1998.6.8 スポーツ報知)

これは、放射能を「悪魔の弟子」と呼んだ井上ひさし氏の言葉です。8/8の講演会が楽しみです。(M)